ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
EU41C101	子ども理解・学校生活の理論的探究(Theoretical study on understanding of school-age children and classroom management)	高度専門科目	

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1	教育学研究科	前期		氏名　吉野敦，伊藤安浩，藤田敦，住岡敏弘，長谷川祐介，永田誠，向井隆久 E-mail　ayoshino@oita-u.ac.jp，yasuhiro-ito@oita-u.ac.jp，a-fujita@oita-u.ac.jp，

授業の概要

学習指導や生徒指導，学校経営や保護者・関係機関との連携などにおいて，学級担任として果たすべき役割について理解を深める。何をすべきかという内容だけでなく，評価の方法（研究の方法）や評価結果に基づく改善計画などを，学校現場における実践事例を教材として読み取っていく。その際，教育経営学，教育哲学，教育社会学，教育心理学，発達心理学，教育方法学等の教育科学における学問的・理論的な知見と照合することで，個々の事例における実践の成果や実践上の課題を分析・考察する力を習得する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	学級担任の業務を理解し，指導計画の作成や評価や改善の手立てを具体的に構想することができる。			○			○				
目標2	教育科学の学問的知見と照合しながら，学級経営の実践事例を分析・考察することができる。			○		○					
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	現代の学校における教育課題と教育実践の開発および教育科学の関わりについて
2	教育実践（学級経営，生徒指導）に関する具体事例の検討
3	教育実践事例における学級担任の役割の考察
4	教育実践事例における連携（チーム，保護者，専門機関等）の意義の考察
5	教育実践に関連する教育科学の研究知見の探索
6	教育実践事例に対する学術的な観点からの考察
7	事例研究を踏まえた新たな課題の設定
8	研究課題に関する研究資料（実践事例，学術論文）の探索
9	研究資料の整理・分析
10	資料分析を踏まえた教育課題に対する新たな対応方針の提案
11	具体的な対応策の構想
12	研究成果の発表計画の検討
13	研究成果の発表内容の再考
14	研究成果報告会
15	研究活動の「振り返り」と今後の教育実践への応用

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認		グループワーク，フィールドワーク等を行う場合があります。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	文献資料の収集・整理（10h） 発表準備（10h）
	事後学修	レポート作成（15h）

教科書	教科書は指定しない。
参考書	各学校種の「学習指導要領」や「幼稚園教育要領」「生徒指導提要」の他、学修者の興味関心に応じて担当教員より具体的な指示がある。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小レポート	30%	○	○								
グループディスカッション	15%	○	○								
研究成果発表会におけるパフォーマンス	20%	○	○								
最終レポート	35%	○	○								

注意事項	
備考	
リンク	URL